

## 大統領選2日前 クリントン陣営の闇

今日のアップデートは、皆さんには忍耐強く耳を傾けていただくようにお願いします。  
なぜなら、今日は神が私に伝えるようにと言われた、とても重い内容について話すからです。

本題に入る前に、先に警告しておきます。警告とは、今回のアップデートは、とても受け止め難い内容で、これの準備をするのも大変でしたが、これを聴く方も確実に大変だと思います。前もって言うておきますが、私は今日のアップデートに関して、謝罪するつもりはありません。これはとても深刻な性質の問題だからです。聖書を通して私たちが見ているのは、神が、これから起きるさばきについて預言者を送り、人々に警告を与えた時、彼らは、それを拒絶して耳を貸しませんでした。その内の一つは、ミカ書2:6、

“「たわごとを言うな。」と言って、彼らはたわごとを言っている。そんなたわごとを言うてはならない。恥を避けることは出来ない。”(ミカ書2:6)

別の言い方をすると、「止めろ」「そんな事は起こらない!」「これらの事は起こらない!」「我々の上に、裁きなんか下らない!」「そんな事を、預言するのは止めろ!」。エレミヤ書6:14-18もまた、そのような内容です。

“「彼ら(偽預言者)は、私の民の傷を手軽にいやし、平安がないのに、『平安だ、平安だ。』』と言っている。彼らは忌み嫌うべきことをして、恥を見ただろうか。否。彼らは少しも恥じず、恥じることも知らない。だから彼らは、倒れる者の中に倒れ、わたしが彼らを罰する時に、よろめき倒れる。」と主は仰せられる。主はこう仰せられる。「四つ辻に立って見渡し、昔からの通り道、幸いの道はどこにあるかを尋ね、それを歩んで、あなた方のいこいを見いだせ。しかし、彼らは『そこを歩まない。』』と言った。また私は、あなたがたの上に見張り人を立て、『角笛の音に注意せよ。』』と言わせたのに、彼らは『注意しない。』』と言った。それゆえ、諸国の民よ。聞け。会衆よ。知れ。彼らに何が起こるかを。この国よ、聞け。見よ。わたしはこの民に災いをもたらす。これは彼らのたくらみの実。彼らが、私のことばに周囲せず、私の律法を退けたからだ。」(エレミヤ書6:14-19)

彼らは、何もしようとせず、聞こうともしない!

“実に彼らは、平安がないのに『平安。』』と言って、わたしの民を惑わし、壁を立てると、すぐ、それをしっくいの上塗りしてしまう。しっくいで上塗りしてしまう者どもに言え。『そ

それは、すぐはげ落ちる。』大雨が降り注ぎ、わたしが雷をふらせ、激しい風を吹き付ける。すると、壁が倒れ落ちる。人々はあなたがたに向かって、『上塗りしたしっくいはどこにあるのか。』と言わないだろうか。

別の訳では、「白い上塗り」と表現されています。

それゆえ、神である主はこう仰せられる。わたしは憤って激しい風を吹きつけ、怒って大雨を降り注がせ、憤って雷を降らせて、こわしてしまふ。あなたがたがしっくいの上塗りした壁を、わたしが打ちこわし、地に倒してしまふので、その土台までもあばかれてしまふ。それが倒れ落ちて、あなた方がその中で滅びる時、あなたがたは、私が主であることを知ろう。わたしはその壁と、それをしっくいの上塗りした者どもへのわたしの憤りを全うして、あなたがたに言う。壁も無くなり、それにしっくいを塗った者どもも、いなくなった。エルサレムについて預言し、平安がないのに平安の幻を見ていた、イスラエルの預言者どもよ。—神である主の御告げ。—”（エゼキエル 13 : 10-16）

イスラエルの民がしていたことは、自分達の聞きたいことだけを言い、預言する預言者を集めたのです。パウロがテモテに言った言葉を思い出します。というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、それから、神の警告には確実に耳を貸しません。その代りに、以前のイスラエルの民のように、彼らもこのような偽教師、偽預言者を集めます。彼らは、偽預言者の周りに集まるだけでなく、その周りに群がるのです。なぜかと言うと、彼らは自分に都合の良い事をいってくれるから（第二テモテ 4:3）。残念ながら、これは現在の教会の様子を物語っています。特に、ここアメリカの教会です。第一テサロニケ 5:3 のこの言葉、これは聖書預言でもよく用いられている箇所ですが、でもこのように考えてみてください。偽教師も、牧師たちまでもが言っています。「平和だ。安全だ。」「全て良い」「心配しないで」「平安に」「神の祝福あれ」「ハレルヤ！」

“そのような時に、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に海の苦しみが望むようなもので、それを逃れることは決してできません。”（第二テサロニケ 5:3）

その日、何人の人が言うでしょうか。「なぜ言ってくれなかったんだ!!!」「なぜ、事実を言ってくれなかったんだ!」「どうして、警笛をならさなかったんだ!」「どうして警告してくれなかったんだ!」「その代わりに、ただ楽しませるばかりで。」「パフォーマンスばかりしていたじゃないか」

なぜこんな前置きをするかと言うと、金曜の朝いちばんで見た事ですが、恐らく、多くの方が目にしたと思います。ヒラリークリントンの選挙対策責任者であるジョン・ポデスタが、

“スピリット クッキング”で知られる、サタンの儀式に関わっていました。これは、「言葉で表現できないほどの悪」だというのでは、まだまだ足りないほど、その内容は口にするのも忌まわしいほどのもので、実にサタンの的です。ウィキリークス関連で、先週暴露されたものだけでも、実に、何と言えれば良いのか、みんな全く気付いていません。申し訳ないが、クリスチャン達は、実際に何が起きているのか全く気付いていない。黙示録には、“サタンが自分の時が短いを知り”と書いています。そして、これは霊的戦いです。前にも言った通り、この格闘は血肉に対するものではなく、共和党対 民主党の戦いでもない。私は、ヒラリー・クリントンの魂を思うと、恐ろしくなります。バラク・オバマの魂を思うと、恐ろしくなります。ドナルド・トランプに関しては、私には分かりません。しかしこれらは男と女の魂で、それを巡って、霊的次元で戦いが起きているのです。それも、人類史上、これまでになかったほどのレベルだと私は思います。

この驚愕の暴露に加えて、もう一つ。クリントン財団の資金提供者は、イスラム国へも資金提供している。これも先週暴露された事実です。これらは、たくさん暴露されたうちの、ほんの2つに過ぎません。まさに、これらの事は密かに行われましたが、今では、世界中に明らかにされました。しかし、これはほんの始まりに過ぎないと言っておきます。それは、すでに叫ばれていることで、私も叫びます。しかし問題は、人々はそれに耳を傾けているのか？もう少し分かりやすく言うと、見張り役が叫び続ければ、たとえ少数でもそれを聞き、受け入れるだろうか。それが、どれほどのリスクを伴っているか分かりますか？見張り役として、私は叫び続け、警笛をならし続け、人々に警告を与え続けます。「アメリカではなく、世界中に、それはやって来る」

いつもいう事ですが、警笛をならして何も起こらない方が、警笛を鳴らさず、何かが起こるよりも良いのです。私がこの姿勢を取る一つの理由は、私たちには、主がいつ来られるのか、その日、その時が分からない。だから、私たちは、見張り続け、備えなければならないのです。私たちに分かっているのは、それは、差し迫っているという事。

今日から2日後、48時間後に、国民は国家レベル、地域レベル両方の、この国の将来に票を投じます。しかしながら、いつ、どのように、さらには結果が伝えられるのかも、まだ分かりません。何が言いたいのか？よく聞いてください。これを言うのは、警笛を鳴らしすぎかもしれない、それでも、今から火曜日までに、何が起こってもおかしくない。さらに言うなら年末までも。過去2日の間に、アメリカ本土に住む私の信頼する2人の友達がメールをくれました。2人はお互いを知りませんが、両方がメールしてきたのは、情報機関に通じる人物の、信頼できる情報でした。彼らは選挙前日に、アメリカ大陸を惨事が襲う可能性について、大変危惧していました。1つの信頼度の高い情報源によると、現在、悪が殺到して浮上してきているということ。別の情報源によると、各機関協力組織で共有される場合、

それは深刻な脅威であるということ。

昨日ロイターが報道したのは、アルカイダが選挙を脅かす恐れがあるとして、アメリカ当局が警告をだしたということ。記事の一部を引用します。

『連邦職員が、ニューヨーク市、テキサス、バージニアの当局に、選挙当日、アルカイダによる不特定の脅迫に関して、選挙前日より、地元警察を警戒態勢で配置せよと金曜日に警告した。CBS ニュースは始めに、月曜日に攻撃される可能性が高いと報じ、当局はこれは企てなのか、または指名された州は実際に標的にされているのか、もしくは謝った指示なのかを査定中。もう一つの可能性として、ここにいる者たちに、攻撃を仕掛けているのかもしれないと、職員は言う。』

もう一度言います。これを伝えているのは、警笛を鳴らして、何も起こらない方が、警笛を鳴らさないで、何かが起こるよりも良いからです。脅迫は、選挙日前日を示唆していますが、もう一つの脅迫は選挙の後の事で、それはオバマが、任期終了前に、国連でイスラエルに奇襲攻撃を仕掛けるとの脅迫で、The Wall Street Journal が報じたのは、「オバマがイスラエルを驚かせるか？」こちらは驚くに値しませんが、アメリカ大統領選の間に、中東状況も動いています。問題は、中東の状況はまったく落ち着きを見せることもなく、全てが加速度を増し、急速に進んでいます。その証拠に、The Jerusalem Post の報道は、「ロシアの増大する中東軍事駐留は、どれほど危惧されているか？」記事を読みましょう。

—記事引用—

中東では、ロシアがさらに激しさを増し、高性能対航空機兵器をシリアに送る一週間前に、地中海に航空母艦を配備。拡大する東地中海でのロシアの駐留は、多くの探知可能な航空母艦で、これが全てでなければ、すでにシリア入りしている、イスラエルの防衛機 S-300 と S-400 のコンビ軍事行為は、多くを不安にさせている。イスラエルの危惧は、最近のネタニヤフ首相よりロシア大統領プーチンへの電話で高まっている。また、10月27日エルサレムで行われた、イスラエルとロシア外務省高官の会議でも同様に、高まっている。—

何が起きているか分かりますか？私たちは、シリアに関するイザヤ書17章のような預言や、ロシア、イラン、トルコ、リビアなどに関するエゼキエル38章の預言が、目の前で成就され始めているのを目撃しているのです。そして、アメリカの教会は眠っている。それが、私は辛いのです。心が痛みます。これらの事で、恐怖に襲われる人もいるでしょう。あるいは、落ち込む人もいるでしょう。でも、これは良い事でもあるのです。どういう意味か？つまり…、皆さんが、そこに座って考えている事は分かりますよ。皆さんの頭の中には、火、硫黄、疫病、その他が浮かんでくるでしょう。でも、時にはそれが必要なのです。我々が目

覚めるためには、揺り動かされないといけない。もう一步踏み込んで言うと、聖書預言の多くの知恵や知識は、嘆きや悲しみがセットで付いてくるのです。何故かと言うと、何が起きているかが分かるからです。そしてそれは、重荷となります。これは旧約聖書の中で、私たちが何度も目にしている預言者が背負う、主の重荷です。真の預言者。真実を伝える預言者で、常に人から嫌われる存在です。

もう1つ、主が私に語られたのは、この悲しみ、憂い、重荷は、良い事だということ。なぜなら、最後には良い終わりがあるから。伝道者の書1：8で、ソロモンはこう書いています。

“実に、知恵が多くなれば悩みも多くなり、知識を増すものは悲しみを増す。”

伝道者の書1：8

「無知は至福だ」という言葉がありますね。知らなければ、悩むこともない。そうすれば、憂うこともない。でも知れば、憂います。でも、良い終わりが待っています。伝道者の書でソロモンが書いたのを見てください。最初は、みなさん思うでしょう、「なんと辛気臭い」「ものすごいネガティブだ」と。「先生、ポジティブに行きましょうよ!」「アップテンポの音楽で!」と。今日は、出来ません。そういう日も、また来ますから。ソロモンは記しました。

“祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうが良い”(伝道者の書7：2)

気持ちが沈みますよね?彼は、その理由も書いています。彼によると、

“そこには、全ての人の終わりがあり、生きている者がそれを心にとめるようになるからだ。”

(伝道者の書7：2)

それから彼は言います。

“悲しみは笑いにまさる。”

「わお! そうなの! ?」そうです。理由はこれです。

“顔のくもりによって心は良くなる。知恵のあるものの心は喪中の家に向き、愚かに物の心は楽しみの家に向く。知恵のある者の叱責を聞くのは、愚かな者の歌を聞くのにまさる。愚かな者の笑いは、なべの下のいばらが始める音に似ている。これもまた、むなしい。”

(伝道者の書7：3-6)

つまり、私たちにとっては、真実を聞けるところに行くほうが良いのです。それは確かにつらく、悲しい事ですが、これが全ての人間の終わりだから。そして、私たちはそれを心に留めようとする。私たちは、自分たちの運命として、心に刻むのです。パーティーではそうありません。パーティーでは思慮深くなりません。楽しみ、遊興して、喜びや娯楽があっても、宿命を心に刻むことはありません。伝道者の書の同じ章14節は、私の大好きな聖句で、基本的にはこのように言っています。順境の日には喜べ、謝る必要はない、神が祝福され、物事が順調に行っているなら、神を賛美しよう！でも、逆境の日、“もし”ではなく、逆境の日には、立ち止まって、考えて、心に刻め。神は、目的があって、この苦難を与えられたのだ。あなたの目を主に向けさせようとしているのだ。目を覚ませ！  
これに続く言葉が、

“それはのちの事を人に分からせないためである。”（伝道者の書7：14）

別の訳ではこう書かれています。

“人は自分の将来については、何も知り得ない。”

つまり神は、繁栄と隣り合わせで、苦難を置かれた。それぞれが、襲ってくるのです。でも苦難が襲ってきた時には、私たちは、立ち止まり、深く考える時なのです。医者から、がん宣告を受けた時、その時は、立ち止まって考えるのです。

次は何でしょう？ロトのようですよ。私の心から、伝えます。教会ごっこを止めるべき時は、来ています。パウロがローマへの手紙13章で書いたように、

“あなたがたが眠りから覚めるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。”（ローマ13：11）

私たちは、悔い改め、私たちは祈らなければなりません。何も起こらない様に、どうかお祈りください。神がこの国を憐れんでくださる様に、お祈りください。明日の投票日も、その後も。これを言う時、私は自分自身にも言い聞かせていることを理解してください。今は、私たちが、主に立ち返るときだと思えます。初めの愛に、エペソ教会のように（黙示録2：4）。主に立ち返るのです。私たちは、人生を主に捧げ、主に服従し、主に受け入れられる、聖なる捧げものとなったのです。悪の日が迫ってきていると思えます。そこで、我々主を知る者は、主に関してもっと真剣になるべき時です。そして、主を知らない人には、私からお願いします。どうか今日、主の御名を呼び求めてください。これをオンラインで見ている方の中

で、今までに主を呼び求めた事のない人をお願いします。ローマ書 10 : 13  
にはこうあります。

“主の御名を呼び求めるものは、だれでも救われる。” (ローマ 10 : 13)

“ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるの  
です。”

(第二ペテロ 3 : 9)

ラッパは吹かれました。今日、警告も与えられました。警報音はすでになり始めています。  
今がその時、今日が救いの日です。

祈りましょう。

主よ、あなたは弟子たちにも、厳しいことを教えられ、多くの者が離れていきました。あなた  
が語られた事が、とても厳しかったからです。そしてあなたは、ペテロや他の弟子たち  
に向かって、「あなたがたも離れるか？」と聞かれました。ペテロの姿が目には浮かびます。彼  
は主の目を見て言いました。「主よ。私たちは他にどこへ行けましょう。」他にどこへ行けま  
しょう。あなただけが、いのちの言葉を持っておられ、あなたはいのちのパン、あなたが、  
いのちであり、道であり、真理なのです。主よ、私たちをあわれんでください。主よ。私  
たちを悔い改めへと導くあなたのやさしさに感謝します。主よ。具体的に祈ります。どうか、  
御心ならば、木曜日の聖書勉強、来週の日曜日に、何事も起こりませんように。あなたは、  
これまでも私たちにあわれみ深く、寛容であられました。イエスの御名によって、アーメン。

---

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセー  
ジを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げ  
たものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英  
語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろ  
うとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、  
インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主  
に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治  
療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル 4 : 7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい